

# LOVE ファッション—私を着がえるとき

Love Fashion: In Search of Myself

[開催概要]

2024年4月

会期：2024年9月13日（金）～11月24日（日）

会場：京都国立近代美術館

主催：京都国立近代美術館、公益財団法人 京都服飾文化研究財団

**京都国立近代美術館（MoMAK）と京都服飾文化研究財団（KCI）は、  
2024年9月13日（金）から11月24日（日）まで、  
特別展「LOVE ファッション—私を着がえるとき」を開催いたします。**

服を着ることは人間の普遍的な営みのひとつです。そして装いには私たちの内なる欲望が潜み、憧れや熱狂、葛藤や矛盾を伴って表れることがあります。お気に入りの服を着たい、あの人のようになりたい、ありのままでいたい、我を忘れたい、……。着る人のさまざまな情熱や願望＝「LOVE」を受け止める存在としてのファッション。そこには万華鏡のようにカラフルな世界が広がっています。

本展では、KCIが所蔵する18世紀から現代までの衣装コレクションを中心に、人間の根源的な欲望を照射するアート作品とともに、ファッションとの関わりにみられるさまざまな「LOVE」のかたちについて考えます。展覧会を通して、私たち人間が服を着ることの意味について再び考えるきっかけとなるでしょう。

## ■ 本展の見どころ

### 「着ること」の面白さや奥深さを再認識する展覧会

私たちは長い歴史の中で、着ることを通じてさまざまな情熱を傾けてきました。たとえば豊かさや権力の象徴としての毛皮は、現在では動物保護をうたう一方でその手触りを手放すことのない、相反する価値観を含んでいます。本展では、KCI が厳選した 18 世紀から現代までの衣服作品を通じて、「着ること」をめぐる人々の多様な願望である「LOVE」とそのありようについて見つめ直します。

### 着る人や創作する人の「LOVE」に溢れた作品を多数展示

美しい花柄が広がる 18 世紀の宮廷服、いまにも動き出しそうな鳥たちがあしらわれた帽子、極端に細いウエストや膨れ上がった袖のドレス。歴史を振り返れば、過剰や奇抜と思える装いにこそ当時の人々の美意識が凝縮しています。現代のデザイナーも新たな形や意味を服に込め、私たちの日々の気分を切り替えるだけでなく、別の何かへと変身できるような感覚を与えます。デザインを極限までそぎ落としてミニマルな装いの記号へと還元するヘルムート・ラングや、ヴァージニア・ウルフの『オーランドー』に触発され、時代や性別を超えた衣装で私たちの固定概念を揺さぶる川久保玲（コム デ ギャルソン）。着る側と作る側それぞれの熱い「LOVE」から生み出された装いの数々が登場します。

### 服を着る「私」の存在とその認識を広げる美術作品を紹介

着るという行為は「私」という存在の輪郭にも働きかけます。本展では、さまざまな願望や葛藤を抱えながら現代を生きる多様な「私」のありようを、現在活躍するアーティストたちの作品を通して紹介します。身近な友人との日常を切り取り、ありのままに生きることを肯定するヴォルフガング・ティルマンズの写真、同世代の女性たちのインタビューを題材にその日常と内面を描き出す松川朋奈の絵画、背負う貝殻を変えるヤドカリの姿に人のアイデンティティを重ね合わせる AKI INOMATA の作品など、「私」をめぐる問いの現在形を探ります。



ロエベ/ジョナサン・アンダーソン  
ドレス  
2022年秋冬  
© 京都服飾文化研究財団  
撮影：来田猛

Loewe / Jonathan Anderson  
Dress  
Autumn/Winter 2022  
© The Kyoto Costume Institute, photo  
by Takeru Koroda



コム デギャルソン/川久保玲  
トップ、パンツ  
2020年春夏  
© 京都服飾文化研究財団  
撮影：来田猛

Comme des Garçons/ Rei Kawakubo  
Top and Trousers  
Spring/Summer 2020  
© The Kyoto Costume Institute, photo  
by Takeru Koroda



ヘルムート・ラング/ヘルムート・ラング  
カットアウト・カーディガン  
2003年春夏  
© 京都服飾文化研究財団、ヘルムート・  
ラング寄贈  
撮影：守屋友樹

Helmut Lang/ Helmut Lang, Cutout  
Cardigan, Spring/Summer 2003  
©The Kyoto Costume Institute, gift of  
Helmut Lang, photo by Yuki Moriya



AKI INOMATA  
《やどかりに「やど」をわたしてみる  
-Border-》  
2010/2019年  
京都国立近代美術館蔵  
© AKI INOMATA

AKI INOMATA  
Why Not Hand Over a "Shelter" to  
Hermit Crabs? -Border-  
2010/2019  
The National Museum of Modern Art,  
Kyoto  
© AKI INOMATA



原田裕規  
《Shadowing》(部分)  
2023年  
© Yuki Harada

Yuki Harada  
Shadowing (still)  
2023  
© Yuki Harada

## ■開催概要

展覧会名	LOVE ファッション—私を着がえるとき
展覧会名 (英)	Love Fashion: In Search of Myself
会期	2024年9月13日(金)～11月24日(日)
会場	京都国立近代美術館
開館時間	午前10時～午後6時(金曜日は午後8時まで) ※入館は閉館の30分前まで
休館日	月曜日 ※ただし9月16日、9月23日、10月14日、11月4日 (すべて月・祝)は開館。翌日火曜日が休館。
観覧料	一般：1,700円(1,500円)、大学生：1,100円(900円)、 高校生：600円(400円) *( )内は前売りと20名以上の団体 *中学生以下、母子・父子家庭の世帯員の方、心身に障がいのある方と付添者1名は無料(入館の際に証明できるものをご提示ください。) *本料金でコレクション展もご覧いただけます。
主催	京都国立近代美術館、公益財団法人 京都服飾文化研究財団
後援	文化庁、京都府、京都市、京都商工会議所、 一般社団法人日本アパレル・ファッション産業協会、 一般社団法人日本ボディファッション協会
特別協力	株式会社ワコール
協力(予定)	株式会社七彩、株式会社ルシアン
会場デザイン	GROUP
特設サイト	2024年5月公開予定 <a href="https://www.kci.or.jp/love">https://www.kci.or.jp/love</a>
巡回展	熊本市現代美術館(会期:2024年12月21日(土)～2025年3月2日(日)) のほか、東京へも巡回予定

## ■関連イベント

### プレ・セミナー

日時	2024年5月18日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
会場	京都国立近代美術館 1階ロビー
主催	京都国立近代美術館 公益財団法人 京都服飾文化研究財団
登壇者	朝吹真理子氏(作家)、小泉智貴氏(Tomo Koizumi デザイナー) 牧口千夏(MoMAK 主任研究員)、石関亮(KCI キュレーター)、 小形道正(大妻女子大学専任講師)

※ご招待状をお持ちの方は事前申込が必要です。詳細につきましては、ご招待状をご確認ください。  
一般の方や学生の方々にも聴講いただけるよう約40席を一般自由席とします。一般自由席については、当日の正午より京都国立近代美術館1階受付にて整理券を配布します。

## ■展覧会カタログ

書名	『LOVE ファッション—私を着がえるとき』
企画・編集	京都国立近代美術館、京都服飾文化研究財団
デザイン	岡崎真理子(REFLECTA, Inc.)
出版	公益財団法人 京都服飾文化研究財団
言語	日本語、英語

## ■主な出展アーティスト

### ファッション(予定)

Alexander McQueen (アレクサンダー・マックイーン)、  
Balenciaga (クリストバル・バレンシアガ、デムナ・ヴァザリア)、  
Chanel (ガブリエル・シャネル、カール・ラガーフェルド)、Celine (フィービー・ファイロ)、  
Christian Dior (クリスチャン・ディオール、ジョン・ガリアーノ)、  
Comme des Garçons (川久保玲)、Comme des Garçons Homme Plus (川久保玲)、

Jil Sander (ラフ・シモンズ)、Junya Watanabe Comme des Garçons (渡辺淳弥)、Kostas Murkudis (コスタス・ムルクディス)、Loewe (ジョナサン・アンダーソン)、Louis Vuitton (マーク・ジェイコブス)、Mame Kurogouchi (黒河内真衣子)、Maison Margiela (ジョン・ガリアーノ)、Nensi Dojaka (ネンシ・ドジョカ)、Noir Kei Ninomiya (二宮啓)、Noritaka Tatehana (館鼻則孝)、Pierre Balmain (ピエール・バルマン)、Prada (ミウッチャ・プラダ)、Ryunosukeokazaki (岡崎龍之祐)、Somarta (廣川玉枝)、Stella McCartney (ステラ・マッカートニー)、Thierry Mugler (ティエリー・ミュグラー)、Tomo Koizumi (小泉智貴)、Viktor&Rolf (ヴィクター・ホスティン、ロルフ・スノラン)、Vionnet (マドレーヌ・ヴィオネ)、Yohji Yamamoto (山本耀司)、Yoshio Kubo (久保嘉男)、Worth (ジャン＝フィリップ・ウォルト)、ほか

#### アート作品 (予定)

AKI INOMATA、Wolfgang Tillmans、原田裕規、松川朋奈、横山奈美ほか

#### 所蔵先 (予定)

公益財団法人 京都服飾文化研究財団

京都国立近代美術館

ウィーン国立歌劇場、株式会社コムデギャルソン、株式会社 groundfloor、BALENCIAGA、hl-art、RYUNOSUKEOKAZAKI、ほか

## ■MoMAK と KCI によるファッション展

京都国立近代美術館(MoMAK)と京都服飾文化研究財団(KCI)は、1980年の「浪漫衣裳展」以来、これまで八度にわたる共同での展覧会を開催してきました。「モードのジャポニズム」(1994)、「身体の夢」(1999)、「Future Beauty」(2014)、「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」(2019)をはじめ、「美術館における衣装展」という分野を日本でいち早く普及、発展させてきました。社会、文化、アートの諸問題とも結びつくテーマを取り上げ、衣服だけにとどまらない、現象としてのファッションの展示を目指すわたしたちの試みは、これまで海外でも評価され、パリ市立衣裳美術館(パレ・ガリエラ)、「モードのジャポニズム」1996年)やNYクーパー・ヒューイット国立デザイン美術館(「Fashion in Colors」2005年)、ドイツ連邦共和国美術展示館(「ドレス・コード?—着る人たちのゲーム」2021年)をはじめ、多数の巡回展が実現してきました。また、「ドレス・コード?」展において、両館の担当キュレーターたちが第15回西洋美術振興財団賞学術賞を受賞しました。本展は彼らが再びタッグを組んで企画します。